

3月1日～3月8日は、「女性の健康週間」です。

なりたい自分をデザインする
丸の内キャリア塾
Marunouchi Career Academy

×

公益社団法人日本産科婦人科学会・公益社団法人日本産婦人科医会
女性の健康週間
産婦人科医は、女性を守り続けます。
— 生涯主治医がいる安心を —

女性の健康週間
産婦人科医は、女性を守り続けます。
— 生涯主治医がいる安心を —

開催概要
プログラム
のご案内

2023年 女性の健康週間 丸の内キャリア塾 スペシャルセミナー

あなたのリプロダクティブヘルス & ライツを考えよう!

～自分らしく生きる。体・心・性～

仕事に、家庭に、プライベートに…と頑張る日々。カラダのことは考えていますか？
女性特有の不調や疾患をそのままにせず、もっと自分らしく過ごすために
今からできる“女性のカラダ”のとおき役におきの役に立つ情報をお伝えします!

オンラインライブ配信 (無料)

事前登録制

申込締切

日時: 2023年 3月1日(水) 18:00～20:30

※どなたでも
ご視聴いただけます。

2月28日(火) 12時

お申込みサイトはこちら ➡ <https://events.nikkei.co.jp/55631/>



【オープニングセッション】
リプロダクティブヘルス総論

18:00～18:30



我が国の現状と課題

弘前大学大学院
医学研究科 産科婦人科学講座 教授 横山 良仁 先生

【セッション①】
ジェンダー・イノベーション

18:30～19:00



性差研究がもたらす多様性を包摂する社会の実現

お茶の水女子大学
ジェンダー・イノベーション研究所 特任教授 佐々木 成江 先生

【セッション②】
月経

19:00～19:30



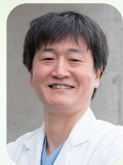
働く女性の月経トラブル

—女性の自己実現を促すために企業や職場でどのような知識と支援が必要か—

慶應義塾大学
医学部 衛生学公衆衛生学 講師 飯田 美穂 先生

【セッション③】
子宮内膜症・不妊症

19:30～20:00



子宮内膜症と不妊症の深い関係

メディカルパーク湘南 院長 田中 雄大 先生

【セッション④】
更年期

20:00～20:30



毎日をイキイキと楽しく!

—更年期をラクに乗り切るマネジメント法—

浜松町ハマサイトクリニック・
東京ミッドタウンクリニック 特別顧問 吉形 玲美 先生

主催: 日本経済新聞社 メディアビジネス イベント・企画ユニット

共催: 公益社団法人日本産科婦人科学会、公益社団法人日本産婦人科医会

広告協賛: あすか製薬株式会社、オルガノン株式会社、バイエル薬品株式会社、富士製薬工業株式会社

※講演25分、質疑応答5分

※プログラムは変更する可能性があります。

後援

厚生労働省、内閣府、日本医師会、日本栄養士会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本助産師会、日本薬剤師会、日本学校保健会、全日本私立幼稚園PTA連合会、
日本周産期・新生児医学会、日本女性性医学学会、日本生殖医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本産婦人科乳癌学会、日本思春期学会、日本女性心身医学会、
日本糖尿病・妊娠学会、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会、日本妊娠高血圧学会、日本婦人科がん検診学会、日本母性衛生学会、日本卵子学会、
日本エンドメトリオーシス学会、日本産婦人科手術学会、日本受精着床学会、日本生殖免疫学会、日本母体胎児医学会、国連人口基金駐日事務所

3月1日～3月8日は、「女性の健康週間」です。

日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会は、産婦人科医が女性の健康を生涯にわたって総合的に支援することを目指し、3月3日ひな祭りを中心に、3月8日国際女性の日までの8日間を「女性の健康週間」と定め、2005年にその活動を開始しました。2008年からは、厚生労働省も主唱する国民運動として、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすことを総合的に支援するため、国や地方公共団体、関連団体が一体となり、さまざまな活動を展開しています。

ご挨拶

日本産科婦人科学会は、すべての女性が生き生きと活躍できる社会を目指して女性の健康週間という活動を毎年行い、その中心の事業の一つが「丸の内キャリア塾」です。「ヘルス」はすべての医療が目指すところですが、産婦人科医はさらに進んで女性の「セクシュアルリプロダクティブヘルス・ライツ(SRHR)」を支援しています。女性の体には思春期・性成熟期・更年期などの様々な変化があり、さらに女性は毎月のホルモンの波を乗りこなしています。私たち産婦人科医の先人たちはこの波を熟知して、少し変化させるだけで月経の辛さや、更年期のトラブルを解決する方法を開発し、その知識を高めてきました。また、子どもがほしい、作ろう、としても思うようにいかないときにも、この波をうまく利用すると出来ることがあります。まずは女性の体の変化や波についての知識を深め、女性の皆さんがより健康に活躍できて希望が叶うようになってほしいと思います。

日本産科婦人科学会 理事長 **木村 正**

私たちは、女性も男性も共同参画し自己決定に基づく生きがいと健康を享受できる社会を目指したいと思います。「女性の健康週間」にあたり、SRHRの視点等を重視しつつ、女性のライフステージに応じた取り組みを通じ、生涯を通じて健康で明るく充実した毎日を過ごしていただけるよう、女性の健康を生涯にわたって包括的に支援をしていきたいと思います。特に、学童期・思春期においては包括的性教育を含めた発達段階に応じた健康教育が、成熟期においては安心して妊娠出産できる環境づくりと働く女性の母性保護・母性健康管理が、更年期・高齢期では疾病予防や健康支援が必要と考えています。そして、女性ホルモンの状況がライフステージごとに大きく変化するという女性の特性等を踏まえつつ、生活の質を損ねる月経困難症・月経過多、更年期障害、骨粗鬆症など、女性が人生の各段階に応じて抱える健康に関する問題を把握し、的確に支援していきたいと思います。

日本産婦人科医会 会長 **石渡 勇**

講師プロフィール



横山 良仁 先生

弘前大学大学院
医学研究科 産科婦人科学講座 教授

2021年より、日本産科婦人科学会 リプロダクティブヘルス普及推進委員会委員長を務める。22年6月に本学会からSRHR普及推進宣言を正式に発出。婦人科腫瘍を専門とする傍ら、全ての産婦人科医がSRHRの知識取得と研修ができるような活動に広く携わっている。



佐々木 成江 先生

お茶の水女子大学
ジェンダー・イノベーション研究所
特任教授

専門は、分子細胞生物学。2019年に名古屋大学とのクロスアポイントメントでお茶の水女子大学准教授/学長補佐に着任し、ジェンダー・イノベーション研究所の設立に尽力。22年からお茶の水女子大学ジェンダー・イノベーション研究所特任教授。現在、内閣府男女共同参画会議の計画実行・監視専門調査会委員も務める。



飯田 美穂 先生

慶應義塾大学医学部
衛生学公衆衛生学 講師

産婦人科と社会医学の双方の視点から、女性の健康増進に資する研究、教育、診療、社会貢献活動に従事。産業医として、職場での女性の健康管理や教育実施、女性の健康に関する産業保健活動の計画立案などにも携わっている。



田中 雄大 先生

メディカルパーク湘南
院長

慶應大学病院時代より生殖・腹腔鏡手術の診療に従事。2009年前身である「湘南IVFクリニック」を開業後、12年に現在の「メディカルパーク湘南」に名称変更し、不妊治療・腹腔鏡手術・分娩から婦人科検診まで女性総合診療科として幅広く診療を行っている。



吉形 玲美 先生

浜松町ハマサイトクリニック・
東京ミッドタウンクリニック 特別顧問

大病院時代は産婦人科医として医療の最前線に立つ傍ら、更年期医療の様々な臨床研究に多く携わる。現在は地域へ拠点を移し診療、研究のほか女性医療発信活動も行っている。2022年7月「40代から始めよう!閉経マネジメント」を上梓。

お問合わせ

「丸の内キャリア塾 スペシャルセミナー」事務局(株)日経イベント・プロ内
E-mail:marunouchi@nex.nikkei.co.jp